

熊谷次郎教授略歴

略歴

- 1938年3月12日 神奈川県横浜市に生まれる。市内の公立の小学・中学・高校を卒業。成人後の略歴は以下の通り。
- 1962年3月 法政大学社会学部応用経済学科卒業（社会学士）
- 1962年4月 社団法人・日本電気協会職員（1964年3月迄）
- 1966年3月 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了（経済学修士）
- 1969年4月 日本電子工学院専任講師（経済学・英語担当）（1972年3月迄）
- 1972年3月 早稲田大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学
- 1972年4月 北海学園大学経済学部専任講師（経済学史担当）
- 1973年4月 北海学園大学経済学部助教授（経済学史担当）（1976年3月迄）
- 1976年4月 桃山学院大学経済学部助教授（経済学史担当）
- 1980年4月 桃山学院大学経済学部教授（経済学史担当）（2008年3月定年退職迄）
- 1982年3月 英国マンチェスター大学歴史学科客員教授（1983年3月迄）
- 1984年4月 桃山学院大学経済学部長（1986年3月迄）
- 1984年4月 桃山学院法人評議員（学部長職，1986年3月迄）
- 1985年4月 桃山学院大学国庫助成委員長（1986年3月迄）
- 1986年4月 桃山学院法人評議員（教員推薦，1989年5月迄）
- 1990年4月 一橋大学経済研究所客員研究員（1991年3月迄）
- 1991年4月 桃山学院大学総合研究所長（1993年3月迄）
- 1991年5月 桃山学院法人評議員（教員推薦，1993年5月迄）
- 1992年7月 博士（経済学）の学位取得（関西学院大学）

1996年4月	桃山学院大学付属図書館長（1998年3月迄）
1996年4月	桃山学院法人評議員（教員推薦，1995年5月迄）
1999年10月	英国ロンドン大学歴史研究所客員研究員（2000年9月迄）
2001年4月	桃山学院大学大学院経済学研究科長（2003年3月迄）
2003年4月	桃山学院大学付属図書館長（2005年3月迄）
2003年5月	桃山学院法人評議員（教員推薦，2005年5月迄）
2008年3月	桃山学院大学定年退職
2008年4月	「桃山学院大学名誉教授」称号授受

学会活動

1995年10月	『経済学史学会年報』編集委員（1997年10月迄）
2000年11月	『経済学史学会年報』編集委員（2002年11月迄）
2000年11月	経済学史学会幹事（2004年5月迄）
2002年11月	経済学史学会常任幹事（2004年5月迄）
2002年11月	経済学史学会学会賞審査委員長（2005年3月迄）

所属学会（2008年3月現在）

経済学史学会 社会経済史学会 日本西洋史学会 History of Economic Thought Conference (United Kingdom) イギリス帝国史研究会 日本経済思想史研究会

著書・論文（2008年3月現在）

I. 著書（単著）

1. 『マンチェスター派経済思想史研究』日本経済評論社，1991年1月（学位論文）。
2. 『イギリス綿業自由貿易論史——マンチェスター商業会議所1820～1932年』ミネルヴァ書房，1995年1月。

II. 共著

1. 『経済理論の基礎』(熊谷次郎・末繁宏造・長谷川啓之・三上英俊共著) 富士書房, 1972年9月. 第1章第3節「経済学の歴史」, 同第4節「経済体制」, 第3章「家計の消費活動」, 第4章「企業と生産」, 第5章「競争市場における価格決定」, 第6章「独占・寡占市場における価格決定」, 第7章「価格機構と経済的構成」を分担.
2. 『経済学・人と学説』(熊谷次郎・佐藤順一・長谷川啓之著) 富士書房, 1975年5月. 以下を分担— 1. 経済思想の潮流, 2. ケネー, 3. スミス, 5. リカード, 6. J.S.ミル, 7. マルクス, 8. マーシャル, 9. ピグー, 10. シュンペーター, 12. ハンセン, 15. ドップ, 22. ガルブレイス, 24. スウィージー, 25. ボールディング.
3. 『自由貿易と保護主義』(杉山忠平編) 法政大学出版局, 1985年10月. 「自由貿易と産業資本——マンチェスター学派と自由貿易の制覇——」を分担.
4. 『古典派経済学の生成と展開』(田中敏弘編) 日本経済評論社, 1990年4月. 第8章「マンチェスター派経済学と古典派経済学」を分担.
5. 『田口卯吉と東京経済雑誌』(岡田和喜・杉原四郎編) 日本経済評論社, 1995年2月. 第2章「三つの経済論争——平均・平準の経済秩序を求めて——」を分担.
6. 『近代日本とイギリス思想』(杉原四郎編) 日本経済評論社, 1995年12月. 第3章「田口卯吉とイギリス」を分担.
7. 『経済学史』(田中敏弘編著) 八千代出版, 1997年3月. 第5章「古典経済学の諸相」を分担.
8. *Economic Thought and Modernization in Japan* (eds.by Shiro Sugihara and Toshihiro Tanaka), Cheltenham (UK)・Northampton (USA): Edward Elger, October 1998. Ch.2. 'Enlightenment and economic thought in Meiji Japan: Yukichi Fukuzawa and Ukichi

Taguchi' を分担.

9. *The Spread of Political Economy and Professionalisation of Economists: Economic Societies in Europe, America and Japan in the Nineteenth Century* (eds.by Massimo M.Augello and Marco E.L.Guidi), London: Routledge, July 2001. Ch.11. 'Orchestrating Economic Ideas: The Formation and Development of Economic Society in Modern Japan' を分担.
10. 『重商主義再考』(大森郁夫・竹本洋編著) 日本経済評論社, 2002年6月. 第2章「重商主義帝国の経済循環」を分担.
11. 『パクス・ブリタニカとイギリス帝国』(イギリス帝国と20世紀・第1巻. 秋田茂編著) ミネルヴァ書房, 2004年5月. 第1章「自由貿易帝国主義とイギリス産業」を分担.
12. *Economists in Parliament in the Liberal Age 1848-1920* (eds.by M.M.Augello and M.E.L.Guidi), Aldershot (UK) and Burlington (USA): Ashgate, November 2005.Ch.10. 'Economists in the Japanese Diet (1890-1930): the Debate on Adoption of the Gold Standard' を分担.
13. 『日本の経済思想1』(大森郁夫責任編集) 日本経済評論社, 2006年7月. 第2章「田口卯吉——社会の大理と経済学——」を分担.

III. 論文

1. 「マルクス経済学方法研究」(早稲田大学・修士論文), 1964年3月.
2. 「J.S.ミルの分配論について——古典派との関連で——」『経済学研究年報』(早稲田大学大学院経済学研究科経済研究会) 第8号, 1967年10月.
3. 「高穀物価格と経済福祉——R. マルサスの価値論について——」『経済学研究年報』(早稲田大学大学院経済学研究科経済研究会) 第10・

11合併号, 1971年6月.

4. 「古典学派の植民地論(1)——アダム・スミスは「自由貿易帝国主義」の先駆者か——」北海学園大学『経済論集』第20巻2号, 1972年9月.
5. 「マルサスとJ.S.ミル——New School of Political Economyをめぐる——」北海学園大学『経済論集』第20巻3号, 1972年12月.
6. 「古典学派の植民地論(2)——アダム・スミスの植民地論——」北海学園大学『経済論集』第21巻1号, 1973年6月.
7. 「ベンサムの経済思想と植民地論——古典学派の植民地論(3)——」北海学園大学『経済論集』第21巻2号, 1973年11月.
8. 「植民地論におけるリカードのスミス批判——古典学派の植民地論(4)——」北海学園大学『経済論集』第22巻1号, 1974年6月.
9. 「R.W.ホートンの移民計画とリカード——古典学派の植民地論(5)——」北海学園大学『経済論集』第22巻4号, 1975年3月.
10. 「N.W.シーニアの経済学史上の位置——価値論を中心にして(上)——」北海学園大学『経済論集』第23巻3号, 1976年1月.
11. 「N.W.シーニアの経済学史上の位置——価値論を中心にして(下)——」北海学園大学『経済論集』第23巻4号, 1976年3月.
12. 「J.S.ミル『経済学原理』の意図と背景(Ⅰ)」『桃山学院大学経済経営論集』第18巻第3号, 1976年12月.
13. 「J.S.ミル『経済学原理』の意図と背景(Ⅱ)」『桃山学院大学経済経営論集』第18巻第4号, 1977年3月.
14. 「J.S.ミル『経済学原理』の構成について——生産・分配二分論との関連において——」『桃山学院大学経済経営論集』第19巻第2号, 1977年10月.
15. 「J.S.ミルの植民地論——ウェイクフィールドとの関連において——」『桃山学院大学経済経営論集』第20巻第1号, 1978年6月.

16. 「蘇峰とマンチェスター・スクール」『桃山学院大学経済経営論集』第21巻第1号, 1979年6月.
17. 「コブデンの自由貿易論」『桃山学院大学経済経営論集』第21巻第2・3合併号, 1979年12月.
18. 「J.S.ミルのインド・アイルランド論——その文明観・後進国観との関連で——」『桃山学院大学経済経営論集』第23巻第3号, 1981年12月.
19. 'Sohou Tokutomi and the Manchester School' 桃山学院大学総合研究所『総合研究所報』第7巻第2号, 1982年3月.
20. 「マンチェスター商業会議所と反穀物法運動」『桃山学院大学経済経営論集』第25巻第4号, 1983年3月.
21. 「マンチェスター商業会議所とインド」桃山学院大学総合研究所『総合研究所報』第12巻第2号, 1986年12月.
22. 「反穀物法運動の経済論——その非リカード的特質とマンチェスター派——」『桃山学院大学経済経営論集』第29巻第3号, 1988年2月.
23. 「19世紀末のマンチェスター派経済論——ルイス・マレットの所説を中心として——」『桃山学院大学経済経営論集』第29巻第4号, 1988年3月.
24. 「19世紀末『大不況』期の自由貿易論（上）——コブデン・クラブとT.H.ファーラーの所説を中心に——」『桃山学院大学経済経営論集』第30巻第4号, 1989年3月.
25. 「19世紀末『大不況』期の自由貿易論（下）——コブデン・クラブとT.H.ファーラーの所説を中心に——」『桃山学院大学経済経営論集』第31巻第1・2合併号, 1989年8月.
26. 「田口卯吉における西欧経済学を受容」桃山学院大学総合研究所『総合研究所報』第16巻第1号, 1990年7月.
27. 「田口卯吉 西欧経済学受容」(金 淇訳) 啓明大学校産業経営研究

- 所『経営経済』第24輯別冊（上記24の論文の韓国語訳），1991年3月。
28. 「ケインズの綿業再建計画とランカシャー」『桃山学院大学経済経営論集』第33巻第4号，1992年3月。
 29. 「自由貿易と互惠主義——コブデン・クラブの一パンフレットの周辺——」『一橋大学社会科学古典資料センター年報』第12号，1992年3月。
 30. 「19世紀末国際通貨会議と複本位制論——ルイス・マレットの議論を中心として——」『桃山学院大学経済経営論集』第34巻第2号，1992年7月。
 31. 「マンチェスター派とその周辺」（研究展望）『経済学史学会年報』第32号，1994年10月。
 32. 「『反同盟』の農業保護論」関西学院大学『経済学論究』第52巻第1号，1998年4月。
 33. 「ヘンリー・マーティンの重商主義」『桃山学院大学経済経営論集』第42巻第4号，2001年3月。
 34. 'Mercantilist Empire and Daniel Defoe's Vision of the British Economic Circulation' 『桃山学院大学経済経営論集』第47巻第1号，2005年6月。
 35. 「イギリス重商主義帝国形成期の経済思想——キャラコ論争における植民地市場の意義——」『桃山学院大学経済経営論集』第49巻第1号，2007年5月。

事典分担

1. 『現代政治学事典』（編・大学教育社）ブレーン出版，1991年4月。
穀物法，産業革命，重商主義，重農主義，ポーア戦争，マンチェスター派，リカードウ派社会主義の項目分担。
2. 『歴史事典・第1巻交換と消費』（川北稔編）弘文堂，1894年1月。

自由貿易論，保護貿易論の項目分担.

3. 『新マルクス学事典』（的場昭弘・内田弘他編）弘文堂，2000年6月。
綿工業の項目分担.
4. 『経済思想史辞典』（経済学史学会編）丸善，2000年6月。重金主義，
トマス・マン，ミスルデン，マンチェスター派，ブライト，コブデン
の項目分担.
5. 『歴史学事典・第12巻王と国家』（黒田日出男責任編集）弘文堂，
2005年3月。重商主義国家の項目分担.

書評

1. 服部正治著『穀物法論争』（昭和堂，1990年）：『桃山学院大学経済経営論集』第34巻第1号，1991年5月.
2. 小林里次『J S ミル研究——平等財政原則とその理論的展開——』（高文堂，1991年）：『経済学史学会年報』第31号，1992年11月.
3. 西沢保『異端のエコノミスト群像——19世紀バーミンガム派の経済政策思想——』（岩波書店，1994年）：『社会経済史学』第61巻第1号，1995年5月.
4. 日高千景『英国綿業衰退の構図』（東京大学出版会，1995年）：『社会経済史学』第62巻第1号，1996年5月.
5. 松野尾裕著『田口卯吉と東京経済学協会』（日本経済評論社，1996年）：『経済学史学会年報』第35号，1997年11月.
6. 森芳三著『イギリス綿花飢饉と原綿政策』（お茶の水書房，1996年）：『社会経済史学』第63巻6号，1998年3月.
7. 桑原莞爾著『イギリス関税改革運動の史的分析』（九州大学出版会，1999年）：『西洋史研究』新輯第28号，1999年11月.
8. 服部正治『自由と保護——イギリス通商政策論史——』（ナカニシヤ出版，1999年）：『社会経済史学』第66巻2号，2000年7月.

9. Donald Winch and Patrick K.O'Brien (eds.): *The Political Economy of British Historical Experience 1688-1914*. Oxford University Press, 2002 : 『経済学史学会年報』第44号, 2003年11月.
10. Lars Magnusson, *The Tradition of Free Trade*, London and New York: Routledge, 2004 : 『経済学史研究』第47巻第2号, 2005年12月.
11. 竹本 洋 『『国富論』を読む——ヴィジョンと現実——』(名古屋大学出版会, 2005年) : 『社会経済史学』第72巻第2号, 2006年7月.
12. John Maloney, *The Political Economy of Robert Lowe*, Basingstoke and New York: Palgrave Macmillan, 2005 : 『経済学史研究』第48巻第2号, 2006年12月.

翻訳 (共訳)

1. P. J. D. ワイルズ著 『社会主義の政治経済学』(堀江忠男監訳) 学文社, 1971年2月. 第6章「典型的指令経済における価格形成」, 第7章「典型的指令経済における分権化と再中央集権化」, 第8章「空間的合理性と地域原則」, 第9章「生産物の分配先」, 第10章「指令経済をいかに合理化すべきか」を分担訳.
2. S. A. モーレー著 『インフレ理論入門』(熊谷次郎・長谷川啓之・東条隆進共訳) 富士書房, 1973年8月. 第6章「フィリップス曲線」, 第7章「インフレーションと所得分配」, 第8章「安定問題」を分担訳.
3. 『J. S. ミル初期著作集(1)』(杉原四郎・山下重一編) お茶の水書房, 1979年6月. 「人口問題論争」(1823-24年), 「『クォーターリー・レビュー』の経済学」(1825年)を分担訳.
4. 『J. S. ミル初期著作集(2)』(杉原四郎・山下重一編) お茶の水書房, 1980年2月. 「奇術通貨」(1833年), 「マルティノー女史の経済学」(1834年), 「ウェイクフィールドの『組織的植民』論」(1834年)を分

担訳.

5. 『J.S.ミル初期著作集(3)』(杉原四郎・山下重一編)お茶の水書房, 1980年7月. 「カナダ問題(抄)」(1838年)を分担訳.
6. 『J.S.ミル初期著作集(4)』(杉原四郎・山下重一編)お茶の水書房, 1996年4月. 『経済学試論集』第1論文「諸国民間の交易の法則, ならびに商業世界の諸国間における貿易の利得の分配について」, 第4論文「利潤と利子について」を分担訳.

学会報告

1. 「マルサスとJ.S.ミル」, 北海道経済学会(於: 北海学園大学)1972年11月7日.
2. 「ミルの『生産分配二分論』と『原理』の構成について」, 経済学史学会関西部会第72回例会(於: 近畿大学)1977年1月22日.
3. 「コブデンの自由貿易論」, 経済学史学会第43回全国大会(於: 南山大学), 1979年11月10日.
4. 「J.S.ミルにおける文明・先進国・後進国」, 経済学史学会第45回全国大会(共通論題「経済学史における先進国・後進国」における報告)(於: 龍谷大学), 1981年11月9日.
5. 「19世紀末の自由貿易論」, 経済学史学会関西部会第104回例会(於: 関西学院大学), 1987年5月23日.
6. 「田口卯吉における西洋経済学の受容」, 啓明大学・桃山学院大学国際学術セミナー(於: 韓国・大邱市, 啓明大学), 1989年11月15日.
7. 共通論題「J.S.ミルと現代」でミル女性論に関して予定討論, 経済学史学会第62回全国大会(於: 札幌学院大学), 1998年10月25日.
8. 「ヘンリー・マーティンの重商主義」, 経済学史学会関西部会第136回例会(於: 甲南大学), 1999年5月29日.
9. 'Orchestrating Economic Ideas: The Formation and Development

of Economic Societies in Modern Japan', Convegno internazionale di studi: L'Associazionismo economico nell'Italia nell'Ottocento Dalle Società economico-agrarie alle Associazioni di economisti, Pisa, 15 ottobre 1999.

10. 'Mercantilist Empire and Defoe's Vision of the British Economic Circulation', フォーラム Empire and Economics における英語での報告, 経済学史学会第67回全国大会 (於: 同志社大学), 2003年5月25日.

雑録

1. 「私の教育観」『梟』（北海学園大学2部梟編集局）第11号, 1973年2月1日.
2. 「『遠友』のイメージ」『遠友』（遠友市民大学文化局新聞部）第1巻第1号, 1975年3月1日.
3. 研究ノート「J S ミルの中産階級観」『朝日新聞』1977年12月16日夕刊, 文化欄.
4. 研究ノート「反穀物法運動とチャーティズム」『桃山学院大学広報』第3号, 1980年11月10日.
5. 「マンチェスター便り」ミルの会会報『MSBJ』vol.1, no.4, April 1983.
6. 「学部紹介・経済学部」『アンデレクロス』（桃山学院大学広報）第9号（開学25周年記念特集号）, 1984年11月23日.
7. 「学内現況について」『ももやま』（桃山学院大学教育後援会会報）, No.22, 1984年12月22日.
8. 「マンチェスター大学のゼミナール寸描」『河内野』（桃山学院大学・登美丘寮生雑誌）, 1985年5月.
9. 「横浜大空襲」桃山学院大学教員有志編『15年戦争の証言』, 1985年

8月15日.

10. 「大学近況報告」『ももやま』（桃山学院大学教育後援会会報），No. 24, 1985年12月.
11. ゼミナール紹介「KUMAGAI SEMINAR」『アンデレクロス』（桃山学院大学広報）第17号，1986年11月11日.
12. 「日本の高等教育財政のあり方について——市川委員会報告を中心に——」『関西教授会連合会』第55, 1988年3月10日.
13. 「高等教育財政（日本と外国）」『関西教授会連合会』第56, 1988年6月10日.
14. 「報告と討議の概要（第12回桃山学院大学・啓明大学校国際学術セミナー）」桃山学院大学『総合研究所紀要』第18巻1号，1992年6月20日.
15. 報告と討議の概要（第13回桃山学院大学・啓明大学校国際学術セミナー）」桃山学院大学『総合研究所紀要』第18巻3号，1993年3月31日.
16. 「パトリック・オブライエン教授を囲む研究会」（国際交流）『桃山学院大学総合研究所ニュース』No.93, 1997年10月23日.
17. 「地域社会と大学（アンケート調査結果報告）」『関西教授会連合会』第59, 1989年4月20日.
18. 「A. N. ポーター教授を囲む研究会」（国際交流）『桃山学院大学総合研究所ニュース』No.99, 1998年12月11日.
19. Book [自著紹介]『『マンチェスター派経済思想史研究』』『アンデレクロス』（桃山学院大学広報）第48号，1991年4月25日.
20. 「ロバート・リンゼーの『リチャード3世』』『アンデレクロス』（桃山学院大学広報）第89号，1999年3月8日.
21. 「図書館蔵書探索（1）——ゴールドスミス＝クレス経済文献文庫——」『アンデレクロス』（桃山学院大学広報）第118号，2005年2月

24日.

22. 「ロンドンでの研修生活——その一端の報告——」(海外雑感)『桃山学院大学総合研究所ニュース』No.109, 2000年12月18日.